

IT 社会で活躍する 情報セキュリティのリーディングカンパニー

ICカード(トークン)の認証技術・暗号技術で、情報資産の「機密性・可用性・完全性」を確保



周りの皆様に対する感謝の気持ちを忘れず
出会った人との縁を大切にしてきました
今日私があるのは皆様のお陰によるものです

株式会社ローレルインテリジェントシステムズ

代表取締役社長 藤井 幹雄

IT社会への移行により、情報管理の手段が紙から電子へと変わり、情報の受け渡しもネットワーク上で行われることが当たり前の時代となった。便利な一方、情報漏えいなどのリスクが常に背中合わせで、自治体や企業といった業界問わず、重大な情報流出のニュースが世間を騒がせることも珍しくない。

こうした中、重要となってくるのが情報の管理、セキュリティだ。紙の管理であれば、物理的な入れ物や鍵がセキュリティのツールとなるが、電子においてはコンピュータ上の入れ物と鍵の構築が重要となる。

東京に本社を構える株式会社ローレルインテリジェントシステムズは、1989年の創業以来電子の情報セキュリティシステムの開発に特化した事業を展開し、多方面のクライアントから絶大な信頼を集め続ける企業だ。

「コロナ禍をきっかけに、在宅ワークやネット取引が爆発的に普及し、それに伴い、幅広い分野でセキュリティ強化の必要性が高まっています。こうしたニーズに応え、IT全盛の現代社会の安心・安全に貢献していきます」

こう話すのは、同社代表取締役社長の藤井幹雄氏。情報セキュリティのスペシャリスト集団を率いて多忙な日々を送る同氏に、企業の歴史や製品の内容など様々なお話を伺った。

運命に導かれるようにローレルインテリジェントシステムズへ
「周りへの感謝と出会った人との縁を大切に」がモットー

ローレルインテリジェントシステムズ誕生のきっかけは遡ること63年前。創業者の鳥飼将迪氏（現相談役会長）が当時勤めていた富士銀行（現みずほ銀行）にて、業務の機械化や事務合理化のための事務集中処理システムの開



サーバーレスで高度な情報セキュリティを可能とする FSS

高度な情報セキュリティを可能とする FSS (ファイル・セキュリティ・システム) クライアントは自治体、金融機関、民間企業など3000を超える

ことができました。今日私があるのはまさに皆様のお陰によるものです」と振り返る。

発を担当したことから始まる。

「鳥飼会長は1976年に紙幣バラ出し可能なオンライン現金自動支払機の開発を企画し、その要である現金支払機の開発をローレルバンクマシンに委託しました。開発は順調に進み、世界初の紙幣バラ出し型オンライン現金自動払出機を完成させたのです」

世の中にとって便利なシステムの開発に成功した鳥飼氏は、「コンピュータ上にある情報セキュリティの重要性」も強く意識するようになり、情報セキュリティ専門の会社を立ち上げることを決意。こうして、1989年12月に、鳥飼氏と日本では数少ない暗号研究者の1人であった平田耕三氏ら5人でローレルインテリジェントシステムズを設立した。

一方の藤井代表は、東京理科大学理工学部を卒業後、日立電子株式会社（現日立国際電気）を経て、当時金融機関向けのシステム開発を行っていた日本アクティ・システムズ（以下日本アクティ）で活躍していた。ローレルインテリジェントシステムズと接点を持つようになったのは、日本アクティ勤務時代の1992年。

「鳥飼社長（当時）が金融機関向けのデータ保管の新ビジネスを打ち出し、誰か手伝ってくれる人物を探していました。一方の私は大きなプロジェクトが丁度終わって一段落といったタイミングでしたので、すぐに『私が手伝いましょうか』と手を挙げ、その新ビジネスの概要をヒアリングしに行ったのが最初の出会いです」

鳥飼氏と会い、新規事業の話聞いた藤井代表は、「鳥飼社長の凄まじい情熱に惹かれ、すぐに一緒にビジネスをさせていただくことになりました。情報セキュリティ、特に暗号は私にとって未知の分野でしたが、知れば知るほど興味が湧き、アイデア次第で色々できるんじゃないかと、無限の可能性を感じました」という。

その後、1997年9月に開発センター長としてローレルインテリジェントシステムズに入社。常務取締役企画開発本部長を経て、2012年5月に代表取締役社長に就任した。藤井代表は、「これまで山あり谷ありで色々な

設立から35年の歴史を刻んできたローレルインテリジェントシステムズは、これまで一貫して情報セキュリティシステムの開発・販売を行ってきた。そんな同社が、長年に渡り提供する主力製品は、特許も取得している同社オリジナルのFSS（ファイル・セキュリティ・システム）。サーバーレスの多要素認証方式と暗号機能を備えた高度な情報セキュリティを可能とするパッケージ製品で、1992年に開発以降、ニーズや時代背景に応じてアップデートを繰り返して常に進化し続けている。

利用ユーザーは年々増加し、現在は地方自治体や各省庁、教育委員会、警察関係といった公的機関から、地方銀行・信用金庫・信用組合やJAバンクなどの金融機関、そして大手通信インフラ、システム開発・SI、製薬、医療機関、食品・製造メーカーなどの一般民間企業と幅広い業界で運用が

なされている。『社内外の情報セキュリティを強化・管理したい』というニーズのある企業・団体に導入し、これまでのクライアント数は3000を超える。

「当社が守るのは、お客様の情報資産。守る上で注意すべきは、内部漏えいと外部からの攻撃です。これら2つの対策として、FSSはICカードとパスワードを基本とする多要素認証と、暗号キーなどの管理をICカード内で行う仕組みを構築しています」

ICカードとパスワードを基本とする多要素認証でパソコンの使用を管理 パソコン1台からでも導入可能なハードルの低さが最大の特徴

FSS導入の基本はICカード。パソコンに接続したリーダーライターにICカードを挿入し、パスワードを入力すればパソコンが操作可能に。パスワード認証はカード内で実行され、連続6回の不正入力でカードが自動的にロックされ使用できなくなる。

ICカードとパスワードの二要素が揃って初めてパソコンが操作できるという仕組みで、たとえば、離席時にカードを抜けばパソコンにロックが掛かり、不正利用や無権限者による閲覧などを防ぐことができる。そしてパスワード認証の代わりに、指紋や指静脈、顔による認証に切り替えることも可能となっている。

「パスワードや複数の暗号キー、生体情報を全てICカード内で管理しているので、専用サーバー不要なシステム構築と運用ができる点が、FSS最大の強みであり特徴です。これにより、パソコン1台でも1万台以上でも簡単



指紋センサー搭載のICカードでセキュリティの管理が可能

に導入できます。この導入ハードルの低さが、多くのお客様にご利用いただいている所以ともなっています」

さらに他の特徴として挙げられるのは、「データの暗号化」、「デバイスの利用制御」、「ログ管理」、「シングルサインオン」の4つ。

データの暗号化は、暗号鍵をICカード内に保持し、パソコンやサーバーにキャッシュ（情報の一時保存）されない分離方式となっており、パソコンの盗難や不正アクセスに遭ってしまった場合でも、データを守ることができる。

デバイスの利用制御は、ICカードごとに、スマホやUSB、DVDなどの扱えるデバイスや機能の制限を行えるもので、パソコンからの情報持ち出しを抑制することができる。

そしてログ管理は、いつ、誰が、何をしたかを正確に記録し、把握できる機能で、各パソコンの利用履歴が一目瞭然に。共有パソコンでもICカードにより利用者が明確になり、不正利用抑制に繋がられる。

「ログ情報の改ざん防止のため、ログ情報は全て暗号化して保存され、専用ビューアーでのみ閲覧できるようになっています」

最後のシングルサインオン。これは、各サイトのログインに必要な複数のIDやパスワードを、1つのICカードが管理する機能だ。ICカードのパスワード1つで、いくつものIDやパスワードを覚える必要なくログインができるようになる。

「パスワード忘れやパスワードの使い回しを防ぐことができます」

導入ハードルの低さを活かし、クライアントの予算やセキュリティニーズにきめ細かく対応 ICカードとデータの暗号化でテレワークなど社外での仕事も安全・安心に

情報セキュリティに求められる、前述の多要素認証、暗号化、デバイス制御、ログ管理、シングルサインオンという全ての機能を1枚のICカードで実現する『FSS基本パッケージ』は、オールインワンのセキュリティパッケージであり、部署間・職員間の不正閲覧を防止するなど、重要データの漏えい防止強化策がいくつも施されている。レベルに応じて必要な機器とソフトを追加するだけで、様々なオプションによりセキュリティを強化できるのも魅力だ。そしてICカードの発行自体を厳格に管理する、『FSS発行管理パッケージ』も提供するのがローレルインテリジェントシステムズの一連のサービス。

藤井代表は、「導入ハードルの低さを活かし、段階的な導入も容易に行うことができます。お客様のご予算やセキュリティ強度のニーズにきめ細かく対応し、無駄なく長期に亘ってご利用いただけるものを開発し、随時ご提案し続けています」という。

たとえば、社員の個人情報を厳格に管理したいある企業に対して、まずは人事部と管理部のみにFSSを導入。その後、製品の使い勝手などで高評価を受けたことで、その企業全体にFSSが導入され、さらに役員クラスのパソコンにのみ、ICカード+指静脈認証を導入。このように、段階的にシステムが導入されていった事例も数多くある。

「最近ではコロナを機にテレワークが増え、1つのビジネスの在り方として定着していますが、たとえば社外で仕事やデータのやり取りなどをパソコンで行う際でも、ICカードとデータの暗号化で、安全・安心に業務を進めることができます。また、万が一ICカードを家に忘れて出社してしまっても、予備カードに設定情報を一時的に格納することで、いつも通り仕事を行うことが可能です」

成功の裏にあるのはスタッフの飽くなき探求心と絶え間ない努力の蓄積 「当社独自の情報セキュリティ技術と製品で社会に貢献していきたい」

これまでも、そして現在も、情報セキュリティの業界はニーズが多い一方、競争の激しい分野であることは一般的にあまり知られていない。その中でローレルインテリジェントシステムズは、創業以来、競争に勝ち続け、クライアントから選ばれ続け、企業として力強い成長を続けている。こうした厳しい世界での成功の裏には、藤井代表をはじめとしたスタッフの飽くなき探求心と絶え間ない努力の蓄積があった。「寝ている時や移動中も常にメモを携帯し、アイデアが浮かべばすぐに記録し、開発に繋げていました」と振り返る。

そして未来に向けては、IoT、ビッグデータ、AIがますますビジネスシーンや社会のあらゆる場面で浸透していくことは間違いなく、同時に情報セキュリティの重要性もますますの高まりを見せるだろう。

そんな中で藤井代表は、「近年パスワードが変わって、当社でも取り入れている生体認証が普及しつつありますが、指紋や指静脈は反応しないこともありますし、顔はどうしても外部に情報が公開されてしまいますので、便利な反面やはり課題もありますね。また、認証だけでは情報漏洩は防げず、そこには暗号化機能が必須となります。これからも現状に満足することなく、常に改善やアップデートを模索し、当社独自の情報セキュリティ技術を活かした

PROFILE

藤井 幹雄 (ふじい・みきお)

1959年生まれ。岩手県出身。
 1982年、東京理科大学理工学部卒業。
 同年4月、日立電子株式会社（現日立国際電気）入社。
 1987年、日本アクティ・システムズ株式会社入社。
 1996年、株式会社ローレルセキュアパーク設立。
 1997年、株式会社ローレルインテリジェントシステムズ入社。
 開発センター長、常務取締役企画開発本部長を経て2012年、代表取締役社長に就任。

INFORMATION

株式会社ローレルインテリジェントシステムズ



<https://www.lis-fss.co.jp/>

所在地	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル1F TEL 03-5510-4711 FAX 03-5510-3011
設立	1989年
資本金	1億円
事業内容	情報セキュリティシステムの開発・販売 保守・サポート業務
コーポレートメッセージ	SECURITY MAKES FUTURE「安全と安心が、人と社会の未来をつくる」 いまやセキュリティは、単に企業や組織の情報資産を守る組織ではなく、未来に向けて、持続可能な社会づくりに貢献する強力な武器であることも訴求。
経営理念	誠意、熱意、創造の3つを合言葉に、21世紀の社会基盤となる情報システムのセキュリティソリューションを提供することで、広く社会に貢献することを企業理念としております。私どもの提供させていただくセキュリティソリューションによって、皆様のより安全で安心な社会の実現を願っております。



様々な情報セキュリティに対応するシステムを1つのパッケージに集約

製品を開発・提供し続け、社会に貢献していきたいと考えています」と未来を見据える。

さらに、「当社として今後のさらなる成長、多方面の皆様からさらなる信頼を得るために、他企業様との競合ではなく協業を目指す。そして経済安保の観点から、製品はこれまでと変わらずできるだけ国産にこだわっていきたい、という風にも考えています」とも。

情報セキュリティのパイオニアとして、業界のリーディングカンパニーとして、藤井代表率いるローレルインテリジェントシステムズは今後も力強く事業を展開していく。